

「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム
「自主を促す工学技術者キャリア教育」の成果報告にあたって

工学部長 大坪 昌久

国立大学法人宮崎大学が発足して、約6年が経過しようとしています。第1期中期目標・中期計画では教育改革を1つの目標の柱としています。工学部では、これまで平成12年度に工学部全体の外部評価、平成13～14年度に大学評価・学位授与機構の分野別評価「工学系」の受審を経て、高度専門職業人の育成や地域と連携した教育研究活動などに取組んで来ました。また、これらの取組みの自己点検を行い、平成15～17年度に全学科が外部評価を受審しました。平成19年度に宮崎大学として大学機関別認証評価を受け、その中で工学部の教育改善の取組みは高く評価されました。

一方、工学部では1万人の卒業生を送り出したのを機に、創立60周年記念行事を挙行するとともに、各学科の先輩による連続講演会「先輩から後輩に伝える技術者のこころざし」を実施してきました。また、FDに関する講演会や意見交換会を実施するとともに、FD委員会設置し、学生による授業改善アンケート等を実施して授業改善に取り組むシステムを構築しました。これらの教育改善の一環として、日本工学技術者認定機構（JABEE）による技術者教育プログラム受審に取り組み、平成15年度の土木環境工学科を皮切りに、物質環境化学科、電気電子工学科、機械システム工学科、情報システム工学科が次々と認定を受け、材料物理工学科も平成22年度の受審（平成23年度認定）を目指しています。

また、工学部は文部科学省の特別研究経費（教育改革）に応募し、「実践型専門技術者を育成する学部教育の充実」（平成17～19年度）と「農工連携等による先端的・融合的教育分野の充実」（平成17～18年度）を採択されました。さらに、文部科学省・若手研究者育成経費「魅力ある大学院教育イニシアティブ」（平成17～18年度、略称大学院GP）にも採択されました。加えて、経済産業省のパートナーシップ人材育成事業として「太陽光発電関連産業のニーズに応える高度専門性を持つ人材育成プログラム」（平成21～22年度）に採択され、地域企業等と連携した高度専門技術者育成に取り組んでいます。

このような数多くの教育改革を受けて、文部科学省の大学教育・学生支援推進事業「自主を促す工学技術者キャリア教育」（平成 21～23 年度）では、専門的な知識習得に加え、学生の社会性やコミュニケーション能力の向上を図り、課外授業などの取組み充実を目指しています。また、学生の自主性を引き出し、キャリアアップに取り組んでいます。

最後に、これらの取組みにおいては、どのようなことが実施されたかではなく、どのように学生の意欲の向上につながったか、どのような成果が得られたかが評価されます。また、各学生のキャリアアップへ取組みが就職や進路選択へつながることも期待されています。この報告書が、第 2 期の中期目標・中期計画の達成に応えるものに発展することを祈念しています。